

横浜市感染症発生動向調査報告（令和6年9月）

《今月のトピックス》

- 百日咳、伝染性紅斑、マイコプラズマ肺炎の報告が増加しています。咳エチケットや手洗いなど、基本的な感染対策を心がけましょう。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が多くなっています。肉などの食品は十分に加熱し、調理や食事の前、トイレの後などにはしっかり手を洗いましょう。
- 手足口病、新型コロナウイルス感染症の報告が続いています。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心に、幅広い年齢層で患者が多く発生し、10代の報告、妊婦の報告もみられます。より一層の注意が必要です。

◇ 全数把握の対象 <2024年8月19日～9月22日に報告された全数把握疾患>

細菌性赤痢	4件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4件
腸管出血性大腸菌感染症	20件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	5件
E型肝炎	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
レジオネラ症	5件	梅毒	40件
アメーバ赤痢	2件	破傷風	1件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	6件	百日咳	23件
急性脳炎	2件	薬剤性アシネトバクター感染症	1件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1件		

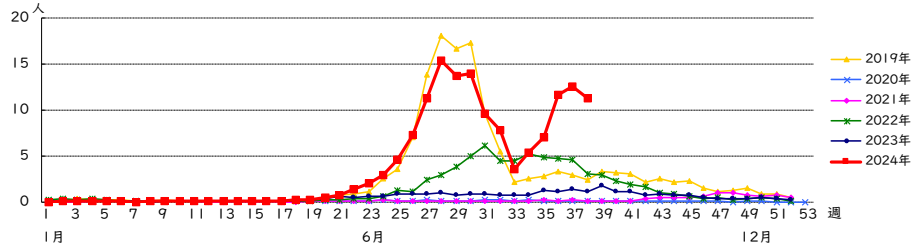
1. **細菌性赤痢**:10歳未満～60歳代で、いずれも Sonnei(D群)です。いずれも国内での感染で、経口感染と推定される報告が1件、接触感染と推定される報告が3件です。
2. **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳未満～90歳代で、O血清群はO157が14件、O103、O128、O145、O148が各1件、O血清不明が2件です。経口感染と推測される報告が11件、経口感染又は接触感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が8件です。
3. **E型肝炎**:40歳代及び80歳代で、いずれも経口感染と推定されています。
4. **レジオネラ症**:50歳代～80歳代で、いずれも肺炎型です。水系感染と推定される報告が1件、塵埃感染と推定される報告が1件、その他の感染経路と推定される報告が1件、感染経路等不明が2件です。
5. **アメーバ赤痢**:40歳代及び70歳代で、いずれも腸管アメーバ症です。いずれも感染経路等不明です。
6. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:60歳代～90歳代で、以前からの保菌と推定される報告が2件、医療器具関連感染と推定される報告が1件、以前からの保菌又は手術部位感染と推定される報告が1件、以前からの保菌又は院内感染と推定される報告が1件、感染経路等不明が1件です。
7. **急性脳炎**:10歳未満及び70歳代で、病原体はいずれもヒトヘルペスウイルス6型(HHV6)です。感染経路等不明です。
8. **クロイツフェルト・ヤコブ病**:70歳代で、古典的CJDです。
9. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:30歳～80歳代で、血清型A群が2件、G群が1件、血清群不明が1件です。創傷感染と推定される報告が1件、その他の感染経路と推定される報告が2件、感染経路等不明が1件です。
10. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:20歳代～50歳代で、AIDSが1件、無症状病原体保有者が4件です。同性間での性的接触と推定される報告が4件、感染経路等不明が1件です。
11. **侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴4回1件、1回1件、無1件、不明1件)で、いずれも感染経路等不明です。
12. **梅毒**:10歳代～70歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期14件、早期顕症梅毒Ⅱ期13件、無症状病原体保有者11件、晩期梅毒1件です。性的接触による感染と推定される報告が35件(異性間25件、同性間3件、性別不詳7件)、感染経路等不明が5件です。
13. **破傷風**:60歳代(ワクチン接種歴不明)で、創傷感染と推定されています。
14. **百日咳**:10歳未満～70歳代(ワクチン接種歴5回1件、4回10件、無1件、不明11件)で、家族内感染と推定される報告が5件、周囲の流行による感染と推定される報告が1件、感染経路等不明が17件です。
15. **薬剤耐性アシネトバクター感染症**:40歳代で、感染経路等不明です。

◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
2024年第34週	8月19日～8月25日
第35週	8月26日～9月1日
第36週	9月2日～9月8日
第37週	9月9日～9月15日
第38週	9月16日～9月22日

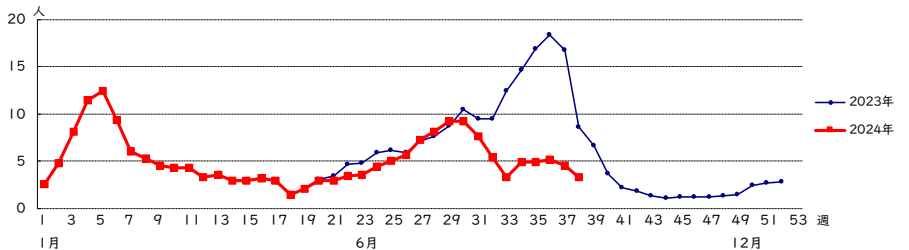
1 手足口病

2024年第26週に7.22となり、警報発令基準値(5.00)を上回りました。第34週以降再び増加に転じ、第38週は11.22です。



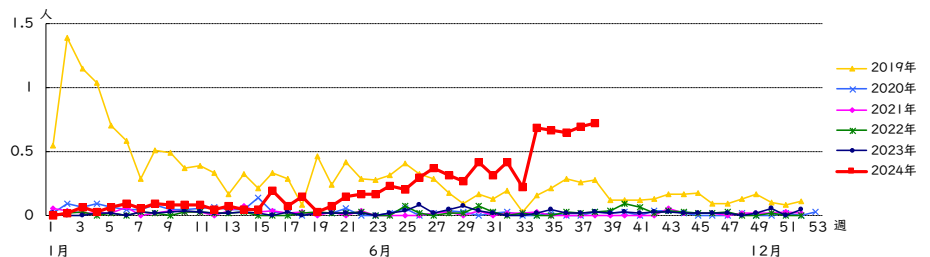
2 新型コロナウイルス感染症

2024年5月以降増加傾向が続いていましたが、第29週の9.15をピークに減少しています。第38週は3.13です。



3 伝染性紅斑

2024年第20週以降増加傾向がみられ、第34週以降は例年の同時期と比較し多い状態で推移しています。第38週は0.72です。



4 性感染症(2024年8月)

性器クラミジア感染症	男性:42件	女性:30件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:9件	女性:6件
尖圭コンジローマ	男性:9件	女性:0件	淋菌感染症	男性:9件	女性:2件

5 基幹定点週報

	第34週	第35週	第36週	第37週	第38週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.25	0.00	0.25	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	1.50	2.50	2.25	2.00	4.25
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(2024年8月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2024年第34週～第38週に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点28件、内科定点8件、基幹定点1件、定点医療機関外2件でした。

10月10日現在、表に示した各種ウイルスの分離6株と遺伝子24件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果 (2024年第34週～第38週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	上気道炎	下気道炎	ヘルパンギーナ	手足口病	ウイルス性髄膜炎	咽頭結膜熱	新生児血球貪食性リンパ組織球症
インフルエンザウイルス AH1型pdm09	1						
	-						
RSウイルス		-					
	1	1					
パラインフルエンザウイルス 2型		-					
		1					
パラインフルエンザウイルス 3型	-						
	1						
ヒトメタニューモウイルス	-						
	1						
ライノウイルス	-						
	4						
コクサッキーウイルスA5型	-		-				
	2		1				
コクサッキーウイルスA6型				-			
				1			
コクサッキーウイルスA9型	-						
	1						
コクサッキーウイルスA10型	-						
	3						
コクサッキーウイルスA16型				2	-		
				-	1		
アデノウイルス2型	-						
	1						
アデノウイルス3型	1					1	
	-					1	
ヒトボカウイルス		-					
		1					
単純ヘルペスウイルス1型							1
							-
エンテロウイルスD68型	-						
	1						
ヒトコロナウイルス*	-	-					
	1	1					
合計	2	-	-	2	-	1	1
	16	4	1	1	1	1	-

*ヒトコロナウイルス: HCoV HKU1 or HCoV NL63

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2024年第34週～第38週の「菌株同定」について保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症16件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症8件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症5件、薬剤耐性アシネトバクター感染症5件、細菌性赤痢2件、サルモネラ食中毒2件、侵襲性肺炎球菌感染症、類鼻疽(疑い例)、ボツリヌス症(疑い例)、*Escherichia albertii* 精査、チフス菌精査が各1件でした。医療機関からの検査依頼は、サルモネラ症2件でした。

「分離同定」の検査依頼は保健所からレプトスピラ症(疑い例)3件、レジオネラ症、エルシニア腸炎(疑い例)各1件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は百日咳1件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2024年第34週～第38週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
保健所	腸管出血性大腸菌感染症	16	O157:H7 VT1 VT2 (6) O157:H7 VT2 (5) O157:H-VT1 VT2 (2) O103:H2 VT1 (2) Og100:H-/Hg30 VT2 (1)	
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	8	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (1) <i>Klebsiella aerogenes</i> (4) <i>Klebsiella pneumoniae</i> (3)	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5	A群溶血性レンサ球菌 T1型 (1) A群溶血性レンサ球菌 T型別不能 (2) B群溶血性レンサ球菌 (1) G群溶血性レンサ球菌 (1)	
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	5	<i>Acinetobacter bereziniae</i> (2) <i>Acinetobacter baumannii</i> (2) <i>Acinetobacter</i> sp. (1)	
	細菌性赤痢	2	<i>Shigella sonnei</i> (2)	
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (1)	
	類鼻疽(疑い例)	1	<i>Bergeriella</i> 又は <i>Neisseria</i> 属菌 (1)	
	ボツリヌス症(疑い例)	1	<i>Clostridium butyricum</i> (1)	
	<i>Escherichia albertii</i> 精査	1	<i>Escherichia albertii</i> (1)	
	腸チフス 精査	1	<i>Salmonella enterica</i> subsp. <i>enterica</i> O18群	
	サルモネラ食中毒	2	<i>Salmonella</i> Nagoya (1) <i>Salmonella</i> Newport (1)	
	医療機関	サルモネラ症	2	<i>Salmonella enterica</i> subsp. <i>enterica</i> O4群 (1) <i>Salmonella</i> Schwarzengrund (1)

分離同定	項目	検体数	材料	同定、血清型
保健所		1	尿	
	レプトスピラ症(疑い例)	1	全血	レプトスピラ遺伝子 陰性 (3)
		1	血清	
	レジオネラ症	1	喀痰	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (1)
	エルシニア腸炎(疑い例)	1	腸液	エルシニア属菌 培養 陰性 (1)

小児サーベイランス	材料	臨床症状	検体数	同定、血清型等
小児科定点	鼻咽頭ぬぐい液	気管支炎	1	百日咳菌LAMP法及び培養法 陰性 (1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】